



2023年3月10日

JR西日本あんしん社会財団

2023年度公募助成（活動及び研究）

～身近な「いのち」を支える取り組みを応援します～

公募助成の助成先（活動団体・研究者） が決定しました！

○応募及び選考結果

JR西日本あんしん社会財団では、「安全で安心できる社会」の実現に向け、2023年度助成においても、心身のケア、防災、救急救命、事故防止並びに事故・災害等の風化防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究（1年及び2年助成）を広く募集しました。また、甚大な被害となった平成30年7月豪雨（西日本豪雨）に対する被災地・被災者支援活動「活動助成（特別枠）」については、今回を最後の募集とし、岡山県、広島県に活動拠点を置く団体を含め、活動助成44件、活動助成（特別枠）14件、研究助成33件の計91件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施し、全件で46件、2,687万円の助成を行うことを決定しました。

	応募件数	助成決定		
		件数	金額	採択率
活動助成	44件	29件	1,386万円	66%
活動助成（特別枠） ^{注1}	14件	10件	498万円	71%
研究助成	33件	7件	803万円 ^{注2}	21%
合計	91件	46件	2,687万円	51%

注1「活動助成（特別枠）」とは、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）の被災地・被災者支援に関する活動に対する助成を指します。

注2 研究助成の金額には、2年助成については1年目の助成金額のみ計上しています。

※助成期間は、2023年4月1日から2024年3月31日までの1年間です（研究助成の2年助成は2023年4月1日から2025年3月31日までの2年間）。

※各助成先の助成対象テーマは、資料1をご参照ください。

※事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、資料2をご参照ください。

※上表のほか、2022年度研究助成（2年助成）の研究6件の2年目に対する助成（661万円）を行います。

<お問い合わせ先>

JR西日本あんしん社会財団 担当：大北・伊田

TEL:06-6375-3202（平日 10:00～17:00）または E-mail:info@jrwest-relief-f.or.jp



「2023年度公募助成(活動及び研究)」助成先一覧

【資料1】

【活動助成】

(団体名50音順)

団体名	活動テーマ	活動概要
アジア子ども基金	PTGは魔法のことば、災害のプラスもマイナスもひっくり返して心の成長をしよう！！	マイナスもプラスも全て包み込み成長につながるというPTGに注目し、被災者からの聞き取りを基に紙芝居を作成し、実演することにより、被災者の苦しみや悲しみからの再生のお手伝いと、これからの未来につながる防災に昇華させる。
池田分かち合いの会・ひかり	自死遺族の心の傘に	大切な人を亡くした自死遺族を対象に、当事者同志が向き合い、寄り添い、共有・共感できる場「分かち合い」や講師を招いた遺族の集いを開催する。
特定非営利活動法人いのちのケアネットワーク	グリーフケア・スピリチュアルケア提供者を対象としたセルフケア講座	スピリチュアルケア提供者の負荷に対するセルフケアの普及とそのサポート体制作りを行うため、セルフケア講座及びグループワークを開催する。
特定非営利活動法人HCCグループ	防災でつながるプロジェクト 身近な命を守るためにできること	親子むけの遊びの要素のある防災イベント「防災おにごっこ」を開催し、地域の防災力を高めるとともに、より持続的で汎用性の高い防災プログラムを構築する。
一般社団法人ADI災害研究所	風水害について学べる絵本を作る	大雨や洪水など風水害について学ぶ絵本を作成し、幼稚園や保育園などの児童施設等への配布や、読み聞かせ等の動画を作成し、団体のSNS等で公開を行う。
一般社団法人LFA Japan	食物アレルギー地域で考える防災講演オンライン	食物アレルギーがある人の災害対策の実例を情報発信するため、オンラインによる情報共有交流会や講演会を開催し、アレルギー対策の全国波及と情報共有ネットワークの構築を行う。
大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会	災害時のリハビリテーション支援の普及とレベルアップのための研修会開催と指導者育成の取り組み	災害関連死や生活不活発病を予防することを目的に、各地域でリーダークラスのリハビリテーション専門職を増やすための研修会を2府4県を対象に受講者を募集のうえ開催し、リハビリテーション支援活動の普及とレベルアップを行う。
特定非営利活動法人大阪ライフサポート協会	障がいを持つ方への心肺蘇生・応急手当普及プロジェクト	障がい者向けの心肺蘇生法と応急手当の講習会を開催するとともに、障がいの種類や程度に応じて行える「心肺蘇生と応急手当」手法の研究・開発を継続し、その指導法や教材(DVDなど)を広く社会に提供し普及する。
環境リハビリテーション科学研究会	ハイブリッド講演システムを活用したコロナ禍における新たな災害時肢体不自由児者支援方法の検討	被災経験者から実地で役立つ技術の情報交換を行うとともに、障がい者の避難方法を健常者と障がい者がともに共有し、情報交換・研修会を開催する。
救命救助研究会	地域防災力向上の支援活動	地域のマンションで防災研修会や避難訓練を実施することにより防災力の向上を目指すとともに、マンション高層階からの避難における困難性を啓発し、階段用ストレッチャーによる訓練も取り入れ災害時に備える。
京都防災士works(わーくす)	防災サバイバルウォーク・防災サバイバルキャンプ	次世代の子どもたちに、災害時の避難行動や共助・協働を楽しみながら学んでもらうことを目的に、サバイバルウォーク、サバイバルキャンプを実施する。
特定非営利活動法人暮らしのコツ研究所	障害福祉・精神科医療等の支援関係者を対象としたトラウマについての研修	障害福祉事務所・精神科医療等の支援関係者を主な対象に、トラウマに関する研修を実施し、安心・安全に暮らせる社会を目指し、今後地域における関係者の連携がとれる繋がり場の提供をする。
けいな虹の会	遺族会の開催・運営	悲嘆を抱えている方たちへ遺族会開催やグリーフケアの専門家を招いて講演会、研究会等を実施し、参加された方々の心の安定を図るとともに、地域の方々へグリーフケアの大切さを伝える。
公益財団法人 公害地域再生センター	防災を「わがこと」に！地域コミュニティの防災力向上に寄与する防災教育	子ども、若年層、子育て層の防災意識の向上や、生活の中で自発的に防災活動に取り組む子育て層を増やすことを目的に、防災教育パッケージの開発やツールの試行、情報発信を行う。
こうのとりのunit	新しい命を迎える防災・減災活動	災害時に避難困難者である妊婦・新生児の防災・減災を目的に、妊婦ジャケット着用など妊婦の避難行動が体験できる防災イベントの実施や各地の自治体への働きかけを行っている。
一般社団法人こどもミュージアムプロジェクト協会	こどもミュージアムフェスタ2023	交通事故件数の減少のため、こども達の描いた絵やメッセージをトラック等へラッピングするなど、事故防止の意識向上を図るイベントを万博公園にて開催する。
特定非営利活動法人こもれび相談室	繋がるあんしん見守りプロジェクト	高齢者や障がい者の安心安全な外出と社会参加を促し、見守りネットワークづくりによって安心安全な暮らしを実現するため、見守り救急タグ配布事業やこもれび通信の配布、スマホ講座等を行う。
ちいさいたね	応急手当講習 ～出来ることがきつとある～	市民による応急手当の普及と相互に命を守れる地域を目指すため、応急手当(普通)講習や普及員講習希望者向け勉強会等を開催する。
一般社団法人TICC	被害者支援コーディネートマニュアルの作成	トラウマを抱えている事故、災害等の被害者支援を地域において活性化させることを目的に、被害者支援コーディネートマニュアルの作成と被害者支援に関わる多職種連携研修会を開催する。
特定非営利活動法人 日本教育復興連盟	若者と若者・若者と地域のつながりを結び直し、災害にそなえる地域散策ツアー	コロナ禍で一層希薄になった学生同士や学生と地域をつなげることを目的に、地域の安全マップ作成散策ツアーの実施や防災教育実践交流会等での発表及び防災講演会等を実施する。
はすの会 東大阪・神戸	はすの会東大阪・神戸の活動	社会一般の人々にグリーフケアを知ってもらうことを目的に、一般向けのグリーフケアの公開講座の開催や、グリーフケアの提供者のための研修として、講義、グループワーク、実習などを行う。
一般社団法人福祉サービスよってんか	保健室事業を軸とした、災害時に支援や配慮を要する地域住民のための仕組みづくり	災害時に支援や配慮を要する住民の避難について、ちょっとした困りごとを保健師に相談できる保健室事業の実施や、それで洗い出された具体的な支援や配慮の方法等を検討・共有するほか、地縁団体との連携による防災イベントを実施する。
一般社団法人フリンジシアターアソシエーション	明德学区つたえろ・つながるプロジェクト「地域防災演劇ワークショップ」	子どもたちが自らの命を守るために必要な「防災知識」「行動力」を養い、地域コミュニティの防災力や地域ノーマライゼーションの意識向上を目的に、防災×表現体験ワークショップや地域防災イベント、発表会を開催する。
ポコズママの会 関西	流産・死産経験者で作るポコズママの会	流産・死産を経験された当事者及びご家族のサポートや、次子出産後も続く悲しみに寄り添う場を提供するため、悲嘆の様子に応じたお話を講師を招いたセラピーグループワーク等を開催する。
まちキャラパーク実行委員会	阪神淡路大震災1.17は忘れない～まちキャラパークin KOBE 2023	災害から自らの身を守る自助と助け合う共助について家族で考えて貰える場を提供することを目的に、神戸メリケンパークにおいて防災・減災ステージや救急救命ショーを開催する。
特定非営利活動法人ミラクルウィッシュ	性・生教育プロジェクト	性に関する知識を身につけることで、自分や周囲の人の「心や身体」を大切にできる親子を増やすことを目的に、「性・生教育」冊子を使った講座や講師の養成講座を開催する。
結creation	地域の宝は地域で守る！地域資料レスキューからのコミュニティづくり	災害時に被災した地域の資料を住民自らが守るための処置方法を学び、体験することを目的に、「水損資料レスキュー講習会」を開催するとともに、地域防災コミュニティ形成を目指す。
NPO法人Reジョブ大阪	高次脳機能障害者の就労シンポジウム	事故等の外傷の後遺症である高次脳機能障害のある方の就労について、考えるきっかけを作り、高次脳機能障害の社会的認知や支援の質の向上を図るため、公開シンポジウムや交流会を開催する。
特定非営利活動法人One by one	AED地域安全事業	救命活動を行うために必要な知識と技術を学習できる場の提供や一次救命処置・AEDの普及啓発を目的に、心肺蘇生法・AED研修会の開催や地域イベント会場でのAED体験を行う。
活動助成小計	29件	

【活動助成(特別枠)】

(団体名50音順)

団体名	活動テーマ	活動概要
あらいぐま大阪	西日本豪雨災害で汚れた写真等をお預かりし洗浄・乾燥・拭き上げ等行いお返しする活動	災害で被災された方々の人生の記録である写真を預かり、思い出を救い、前を向いていただく力となることを目的に、写真洗浄活動の他、イベント、SNSによる情報発信を行う。
家庭文庫ぼてと※	災害を忘れないため みんなでできること第2弾	三原市を中心に西日本豪雨の被災地の親子に対し癒しを提供するとともに防災・減災意識の意識向上を図るため、0歳から未就園児親子の集いの場やコンサート、避難所体験を開催する。
一般社団法人 こどもスマイルミーティング※	被災の経験を未来に！！	西日本豪雨の被災地の親子に楽しい時間を提供するとともに、防災意識を高めることを目的に、親子コンサートの開催や保育園、幼稚園等で保育士・親子防災研修を実施する。
特定非営利活動法人こもれびの里※	特別枠 平成30年西日本豪雨災害で水害被害に耐えたビニールハウスの活用。被災地の景観の復興支援と障がい者就労支援	西日本豪雨に耐えたビニールハウスでのイチゴ栽培や里山の竹を伐採し竹炭を作ることを通じ、災害を経験した子供たちの心のケアや地域の復興を図る。
三田を知る会	安心社会づくりの被災者自身の支援スキル向上の学び	広島市及び岡山市において、被災者の心のケアの実施や孤立化防止を目的に、ピアボランティアの養成や傾聴を行う。
特定非営利活動法人 SKY協働センター※	坂町の被災者・被災地コミュニティ形成のための集いの場づくりと内発的復興の取り組み活動	コミュニティハウスを拠点に交流の場となるイベント等を開催し、災害公営住宅や住宅再建先での孤立化を予防するとともに被災者の不安や悩みを住民同士でも共有する。
被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」	倉敷市真備町での復興支援活動「神戸から真備へ」	被災した地域支援や心のケアのほか、被災地の現状等を広く知ってもらうことを目的に、同地域の復興支援住宅、児童館等での傾聴サロン、子どもイベント、見守り訪問やそれらの情報発信を行う。
ひだまり応援団※	西日本豪雨災害応援プロジェクト	災害直後から支援してきた広島県の保育園などとの繋がりがコロナ禍により希薄になってしまったため、再び子どもたちが笑顔になるイベントを企画・開催する。
広島県防災ドローン研究会※	子どもたち集まれ！豪雨に負けない心を育てる！	被災地域で子ども目線のぼうさいイベントを行うほか、子どもたちの意見を取り入れた主体的なプログラムを実施することにより、この先の防災活動に自信を持たせるほか、大人をも変えられることを学んでもらう。
門戸倶楽部	西日本豪雨災害復興支援 岡山「笑い」の復興教室	西日本豪雨災害で被災した子どもたちに活気を与え、またSDGs・環境問題についても考える機会を与えるため、社会のしくみや科学技術、環境について理解を深めてもらう「笑い」の復興教室を開催する。
活動助成(特別枠)小計 10件	※印は近畿2府4県以外に拠点がある団体	

【研究助成(1年助成)】

(研究者名50音順)

研究者名	研究名称	主な研究内容
大阪大学 特任助教 野田 祐樹	自然災害を検知可能なシート型振動センサの開発	地震波から土砂災害まで幅広い災害を検知可能とするシート型振動センサを開発し、振動を伴うあらゆる自然災害を一つのセンサで検出することを目指す。
兵庫教育大学大学院学校 連合学校教育学研究所 博士後期課程1年生 松岡 優菜	トラウマ体験者の自己客体化測定指標の開発	トラウマ体験者の心理的苦痛を可視化し、自己客体化という視座の導入によりトラウマ体験者に対する一貫した支援や支援のための基盤を構築する。
園田学園女子大学 准教授 山崎 雅史	小学校での安全教育推進のための評価システムの構築	小学校における安全教育について、安全教育推進校の研究成果等を反映させた評価シートを作成し、モデル校で試用、改善のPDCAサイクルを回すことで、評価システムの構築を目指す。
研究助成(1年助成)小計 3件		

【研究助成(2年助成)】

(研究者名50音順)

研究者名	研究名称	主な研究内容
立命館大学 食マネジメント学部 教授 荒木 一視	南海トラフ地震発生後の救援活動における鉄道施設利用の可能性	南海トラフ地震をはじめとした広域災害時の救援活動における鉄道施設の利用可能性についての検討を行うとともに、効果的な救援活動計画を提案する。
兵庫県立大学 看護学部 准教授 大江 理英	『生徒へのコール&プッシュ教育に至る「生命と心を守り、育て・つなげる」養護教諭支援プログラム』の開発	中学校に勤務する養護教諭の生徒への急変対応の実態と的確な対応に向けたニーズ調査を行うとともに、生徒への「胸骨圧迫+AED蘇生法」の教育を行うための支援プログラム制作、効果の検証を行う。
神戸親和女子大学 教育学部 教授 金山 健一	学校で活用できる児童生徒の自殺予防のアセスメント方法の構築 ～いじめによる自殺防止の視点を含めて～	子どものいじめによる心のサインの早期の気づきをはじめとした、学校で活用可能な自殺予防のアセスメント方法を構築し、その原因究明と自殺防止対策を提案する。
関西医科大学 リハビリテーション学部 助教 宮原 智子	高次脳機能障害者の一般就労継続に必要な要因に関する研究	高次脳機能障害者の就労継続を可能とする当事者の対処行動や定着を妨げる要因を分析し、就労継続に必要な評価指針作成と職業リハビリテーション技法開発を行う。
研究助成(2年助成)小計 4件		
<総合計>	46件	

「2023年度公募助成（活動及び研究）」の審査結果について

公益財団法人J R西日本あんしん社会財団
事業審査評価委員会 委員長 白取 健治

「2023年度公募助成（活動及び研究）」に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

1. 応募状況

「2023年度公募助成（活動及び研究）」では、募集テーマを「事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケア、並びに事故、災害等の風化防止に関する活動や研究」として募集いたしました。

「活動助成（特別枠）」においては、甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨（西日本豪雨）」（以下（ ）内略）に対する被災者支援活動につき、広島県及び岡山県に活動拠点を置く団体も対象とし、今回を最後の募集として実施いたしました。

募集にあたり、対象となる府県にある社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、NPO支援機関、大学等へのチラシ郵送等を行い、各所でチラシ等の掲出や配布、ホームページ等への情報掲出に積極的にご協力をいただきました。新型コロナウイルス感染症影響による各団体の活動における様々な制約に伴い、屋外活動を主体とするものが減少し、また、特別枠として東日本大震災への適用がなくなるとともに、平成30年7月豪雨災害の被災者への直接的な支援のための活動は、発災からの経過年数に伴い徐々に低減してきたようであり、応募総数において、前年に引き続き下回る結果となりました。ただ、研究助成においては、研究活動にも調査活動をはじめコロナ禍故の制約がありながら、2023年度に2年目を迎える件数を勘案すれば、ほぼ前年並みの応募数だったと捉えております。

その結果、応募数は合計91件（前年110件）でした。

2. 審査プロセス

審査は、これまでと同様、理事長から諮問を受け、まず事業審査評価委員会を開催し、審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

7名の委員全員が全案件の申請書をじっくりと読み込み、1次審査と2次審査において全案件について各自で評価を行いました。その後、最終審議の場としてあらためて事業審査評価委員会を開催し、各委員が2次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、採択案を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、応募資格を満たしているかの確認はもちろんのこと、募集要項に記載がある当財団による本助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準とし、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等も十分踏まえつつ、「社会的な必要性」、「独創・先駆性」、「計画性」、「経費の合理性」、「地域における連携やつながり」の視点に加え、コロナ禍における計画の実行可能性も意識し、厳正な審査により採択案を決定しました。2年助成については、複数年に亘る助成としてテーマや計画が相応しいかの視点を踏まえました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、当財団が継続して助成を行う必要性や、今後の発展性、社会に対する影響力のほか、申請時点での具体的な活動成果等を総合的に吟味したうえで、採択案を決定しました。

3. 審査結果

活動助成 29 件、1,386 万円（前年 24 件、1,127 万円）、活動助成（特別枠）10 件、498 万円（前年 15 件、722 万円）、研究助成 7 件、803 万円（前年 13 件、1,637 万円）、加えて研究助成 2 年目に対する 6 件、661 万円の助成を含め、合計 52 件、3,348 万円（前年 52 件、3,486 万円）を採択案件として理事会へ答申いたしました。

採択率は、活動助成が 66%（前年 55%）、活動助成（特別枠）が 71%（前年 60%）、研究助成が 21%（前年 32%）となり、全体では 51%（前年 47%）となりました。

(1) 活動助成

異常気象はじめとした自然災害の備えとして、防災・減災に関する応募が多く、次いで心のケア、救命、事故、安全等に関する取り組みの応募が続くこととなりました。採択件数においても、概ねそれらを反映した結果となりました。

(2) 活動助成（特別枠）

今回が最後の設定となる平成 30 年 7 月豪雨の被災地・被災者支援に関する活動については、発災からの経過年数とともに、支援のニーズも変化してきているようであり、応募件数は減少となりました。被災者の心のケア、コミュニティの復興に関する応募が多く、それらを中心に採択しました。なお、2 府 4 県以外に拠点がある団体として岡山県から 1 団体、広島県から 5 団体を採択しました。

(3) 研究助成

心のケアを筆頭に、身体のケア、防災・減災、救命、安全等バランスよく応募が寄せられました。採択に当たっては本公募助成の趣旨及び社会的必要性等の審査基準に該当するものとし、現下の状況における国内外の調査研究の実施可能性等も含め慎重に審査を行いました。採択にあたっては、それぞれ助成期間（1 年／2 年）に照らし、テーマ及び計画が相応しいかの観点も重視しました。

4. 総評

今回も熱意あふれる多くの応募をいただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

全体を通じ、残念ながら、申請上の記載不備等により不採択となる件数割合が一定数ありました。提出時のチェックリストや、過年度の不採択事由を示した通知書等の活用を、先ずはお願いしたいと思います。

新型コロナウイルスの 5 類相当への変更が予定されているものの、安心して活動するという観点からは感染防止を当面は意識せざるをえないと思います。活動助成及び活動助成（特別枠）については、引き続き、オンラインの活用（代替措置として念頭に置くことも含む）をはじめ、感染リスクを低減させながらいかに活動の趣旨を達成する計画とするか、最新の状況を踏まえた工夫をお願いします。

研究助成については、萌芽的研究、応用的研究のいずれであっても、安心・安全に関し、社会実装への期待や他の研究者に参考となるような成果などを申請書から感じられるかという観点を大事にしながら、収支計画の具体性や合理性も含め審査いたしました。2 年助成に対しては、様々な調査を伴う研究案件が多く寄せられる中、昨年度も申し上げましたが、調査の期間やそのための準備期間の長さに疑問を感じるものも少なくありませんでした。必要以上に汎用性を持たせたものは、メッセージとして計画内容の曖昧さが審査委員に対して伝わってしまうため、結果として、助成採択が難しくなっております。また、研究全体のゴールイメージと今回の助成期間における到達点を示していただけると、研究遂行への決意が伺えることとなり、計画の具体性がより増してまいります。

コロナ禍で研究方法等が制約される中ですが、所期の目的・成果実現に向け、必要な助成期間を選択のうえ、申請書に皆さまの当該研究に対する想いを込めていただきたいと思います。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。その実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、新たに取り組みを開始される皆様のご活躍を心よりお祈りしております。